

花高同窓会会報



第120号

発行 令和2年11月27日

秋田県立花輪高等学校
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137
URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (株)成文社



コロナ禍を克服して、 あたらしい時代へ



同窓会長
関 厚
(高二四期)

一、コロナ禍の状況

コロナウイルスの感染が世界中で、おおきな問題となつています。感染被害が拡大するとともに祭りなど伝統的な行事が中止され、経済社会にもおおきな打撃を与えています。感染症対策に尽力されているみなさま、経済回復に尽力されている皆様に敬意と感謝申し上げます。この感染症防止のため学校教育では全学生にタブレットをもたせるなどITの充実がすすんでいます。先日、わたしもテレビ会議をしました。時代は、おおきく、うごいていてる感じがしました。

二、北東北の中心として

本年二月、花輪高等学校、十和町高等学校、小坂高等学校の統合が県より発表されました。設置場所は花輪高校敷地、開校時期は令和六年四月、一学年六学級、三学年で計十八学級の学校規模です。「グローバル化の時代に対応できる広い視野と、持続可能な地域社会づくりへ

参画しようとする高い志をもち、多様な人々と協働して未来を切り拓くたくましい人間の育成」が基本理念です。

わが花輪高校は大正十五年(一九二六)に設立され「誠実友和創造英気」を校訓として域社会のみならず国際社会に対応できる有為な人材の育成を目指し卒業生は一八、六〇〇余名を数えます。十和田高校は昭和十八年(一九四三)の設立で「純・剛・忍」を校訓とし有為の卒業生は一四〇〇名を超え、小坂高校は大正五年(一九一六)の創立で校訓「和親」で、有為の卒業生は一、四〇〇余名を数えます。

統合高の発展には各高の歴史と伝統を踏まえながら北東北の中心で豊かな自然や産業の盛んな鹿角の魅力が十分に発揮されることが大事です。同窓会としても、すばらしい統合高となるよう取り組んでまいりますので、同窓会会員のみなさまのご意見、ご指導、ご支援をお願い申し上げます。

災い転じて 福となそう！



校長
阿部 聡

同窓会員の皆様には、日ごろから母校愛に満ちた御支援と御協力を賜りまして、衷心より感謝申し上げます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な会合が中止

となり、五月の総会や東京支部「花栄会」総会に足を運ぶことが叶いませんでした。皆さんとお会いできず残念至極であります。また、首都圏秋田県高等学校同窓会連合会の「秋田ふるさと訪問団」の本校訪問を心待ちにしておりましたが、一年延期となりました。副会長を務めている根市知宏様(二五期)には、今後もお骨折り頂くこととなります。

御承知のとおり、コロナ禍で全国一斉や秋田県の臨時休業をはじめ、運動部・文化部の各種大会等の中止など、学校教育活動は未曾有の混乱に見舞われました。職員の迅速かつ冷静な措置と、柔軟性に富む生徒の対応で、ほぼ本来の学校生活を送ることができております。ただ、多くの三年生の活躍の場が失われたことは、気の毒の一言に尽きます。この悔しい経験を将来に活かしてくれることを願うばかりです。

また、コロナ禍による学習環境の悪化を阻止する目的で、三年生の教室へのエアコン設置、生徒一人一台端末化、全教室への電子黒板と書画カメラ配置と、瓢箪から駒が出る如く、二・三十年ほどかかる変化が半年であつという間に動いた感があります。平成二十六年から始めたアクティブ・ラーニング型授業の実践に、この度の授業のICT化推進の動きが加わり、一層魅力的な授業が展開されること期待しております。教職員一同、その準備に邁進しているところでです。

総会開催のご案内

日時：令和3年5月14日(金)

18:00 ~ 総会・講演会

19:00 ~ 懇親会

場所 茅茹荘

申込 学校事務局 ☎0186-23-2126

来年は金曜日開催としました。その時期になりましたら、案内をホームページ等に載せましたので、お問い合わせの上ご参加ください。

北東北には、コロナの感染者が少ない。そして鹿角市は一人の感染者もでていない。それは、人口が密集していないからと一概に言えないと思う。自然が豊か、新鮮な食べ物も豊富、まじめな人間性等、コロナになりにくい要素が多々あるとつくづく思う。

今こそ北東北の真ん中にある鹿角のすばらしさを全国に発信しよう。



鹿角市議会議員
吉村 アイ(19期)

コロナ禍で変わる母校の近況

2学年主任 齊藤祐一郎 (四九期)

今年度、コロナウイルス感染症の影響により学校行事や各種大会の中止など、学校生活が大きく混乱しました。現在、対策を講じて、普段通りに近い学校生活が送れるようになりつつあります。そこで本校での学校生活について、紹介したいと思います。

四月、入学式が在校生不参加、保護者一名のみの参加で行われました(三月の卒業式は卒業生のみ参加でした)。さらに、三密を避けるため、今年度は新入生歓迎会(昔の対面式)は簡素化され応援歌練習も実施しませんでした。来年度以降、応援歌をどのように繋いでいくか大きな課題だと思います。五月、六月、運動部の三年生にとつて集大成の県北総体、全県総体が中止されました(八月のインターハイも含めて)。学年集会の場で伝えられた三年生はともつらい気持ちだったと思いますが、多くの三年生が七月に実施された代替大会に出場し最後まで頑張ってくれました。学校行事に目を向けますと、強歩大会は中止しましたが、花高祭は校内のみで実施することができ、大運動会は九月に延期して感染症対策を万全にした上で実施することができました。校内球技大会も十月に実施しております。高校生活の中で生徒にとつて最大の行事である修学旅行ですが、何度も検討を重ねましたが、中止という判断をしました。生徒が一番楽しみにしていたであろう行事を中止せざるを得ないのは本当に残念でなりません。このように学校生活はコロナ禍の影響を大きく受けております。今後もまだまだ影響を受け続けると思いますが、その時々において生徒にとつて最善の方

法を考え、取り組んでいきたいと考えております。

大湯ストーンサークル、世界遺産へむけて

大湯ストーンサークルの会会長 奈良 祐治 (二八期)

かつて縄文時代の代表的な遺跡として、教科書に載った『特別史跡大湯環状列石』は、今や副読本で紹介される程度であり、その地位を三内丸山遺跡に奪われてしまった。理由は宣伝不足やアクセス不良ではなく、ましてや史跡自体の価値に起因するものではない。極言すれば私自身を含めた市民の無関心にある。

花輪で生まれ育った私にとつてそこは十和田湖への通り道に過ぎず、温泉にもスキー場にも行ったことはなかった。風張台地にあるストーンサークルなどは埃っぽい砂利道と掘り返された黒土の中に見える乾いた石の集まり程度の記憶しかない。その遺跡が『北海道・東北の縄文遺跡群』一七箇所のひとつとして世界文化遺産をめざしている。

一昨年、数十年前ぶりに遺跡と展示室を見学し、高木豊平先生・英子先生、夫妻のお勧めで史跡のガイドを始めた。様相は一変していた。そして気が付いた。我々の世代の多くは未だに時計計の遺跡と思っていないだろうか。環状列石は太陽運行と関連した共同墓地という説を聞いているだろうか。土版に印された穴の数、五角形の浅鉢に施された大湯式の美しい模様を見たことがあるだろうか。そして八九年前に大湯の人々が保護活動を始めたことを知っているだろうか。

昨年十二月の世界文化遺産国内推薦候補決定を受け、今年の九月六日にイコモスのオーストラリア人調査員が

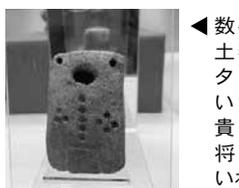
大湯環状列石を訪れた。案内した学芸員の話によれば、記念撮影をするほど御執心であったという。しかし、この事をもって来年の認定が約束されたわけではない。国際機関の合理的思考は、遺跡の保全と併せて「価値の伝達」が行われているかを評価する。地元民の積極的な関与が重視されるのである。

来年認定されれば、大湯環状列石は大日堂舞臺(二〇〇九年無形文化遺産)、花輪はやし(二〇一六年無形文化遺産)に次ぐ登録遺産となり、鹿角市は二〇二三年に無形文化遺産の認定をめぐす毛馬内盆踊りと併せて四件うち三件はシリアル・ノミネーションのユネスコ遺産を有する自治体となる。更に近代化産業遺産である尾去沢と小坂の鉱山を加えれば、これらは鹿角全域に展開し古代から近代へ連なる大きな遺産群となる。大湯は世界文化遺産としてそれらの中核となるであろう。

ソポとに器。と。記メだ界土宝。をはア世な画。れ数字ミう重来。わ数土タイ貴将い



▲ 奈良さんの近影



ユネスコ無形文化遺産をめざす毛馬内盆踊り 富谷 秀之 (二八期)

平成三十二年二月一日、全国民俗芸能「風流(ふうりゅう)保存・振興連合会設立総会が東京都で開催され全国三十の団体が正会員となりました。秋田県

よりは西馬音内と毛馬内が登録されています。この経緯は平成二十九年に香川県まんのう町の綾子踊(あやこどり)が単独でユネスコ申請提案したものの未審査になつていったことから「風流」としてまとまつて申請した方が登録に早く近づくとの判断で、綾子踊保存会会長が会長となり、まんのう町の職員が事務局となつて設立に至つたようです。

令和二年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面紹介となりました。神楽や田楽がプロの集団によつて継承されるのと違つて「風流」はその地域に住む住民があらゆる関わり方をしながら維持伝承されてきた路上芸能のことを言います。具体的には盆踊りや剣舞などで、今回は国指定の重要無形民俗文化財を基本に七十団体くらいに声をかけた結果三十三団体での設立になりました。以上のことからわかるように、一足先にユネスコ無形文化遺産となつた花輪はやしと似通つた経過をたどつています。私個人としては指定はかなり有望だと確信しています。どうかみなさんも登録に向けて一緒に祈念してください。さるようにお願ひいたします。



帰郷してからの二十年 作山 幸夫 (二二期)

一九六九年の春から、半世紀。今年、古希を迎える。二〇〇〇年、わたしは三〇年の東京生活に終止符をうち、帰郷した。一九九五年の夏、二度救急搬送され、翌年会社を退職し、在宅酸素療養生生活

をつづけていた。長年(二五年)暮らしていた萩窪には愛着があった。ようやく古本屋の仕事が見つかり、生活の目処がたつたのだが、ふたつの切実な声が、わたしにつよく郷をうながした。精神科病棟に長期入院していた末弟の退院を、受け入れる両親の不安の声。退院しても帰る場所がない人のために、グループホームを準備している支援者の声であった。NPO法人の設立、運営への参加を請われた。

僅か三年の活動だったが、グループホームは三軒になり、法人運営の基礎作りにも多少でも貢献できたのであればありがたい。

帰郷したとき、わたしは五〇歳。日中は酸素吸入、就寝時は人工呼吸器使用という制約はあったが、車の運転ができなかったので、ある程度の活動が可能だった。自ら五十雀(ごじゅうから)と鼓舞して、大館市のクラシックギター教室に三年半通いつづけた。その後、スペイン留学から帰国して間もないギタリストに学んだ。盛岡市から鹿角まで月二回教授に来てもらった。岩手県の文化会館、公会堂での発表会で演奏の機会を得たことは、今でも夢のように思える。

五〇代半ばを過ぎると、体に異変を感じるようになった。脊髄筋進行性萎縮症と診断された。歩行や姿勢維持に困難が伴うようになり、電動車椅子が必要になった。ギターを弾きつづけることが叶わなくなった。しかし、クラシックギターを学びつづけたことが、あたらしい道へと繋がった。音楽家と知り合う機会ができたことである。おかげさまで海外でも活躍する三人のソリストを鹿角に招聘できた。

二〇二二年九月、水戸茂雄氏の「リユート音楽による、ルネッサンス&バロックへの旅」アンコールに「浜辺の歌」を弾いてくれた。(小坂町天使館、花輪

花輪高のシンボル シダレカツラ

鹿角市の文化財のシダレカツラは花輪高等女学校の校舎落成を記念して昭和5年(1930)に正門横に植栽されたものです。原生地は岩手県の霊峰早池峰山で江戸時代に発見されたもので、八幡平の長内の根本家に移され、その後、諸先輩の手を経て移植されたものです。樹齢95年、樹高18メートルと巨木です。現校舎への移植は何度かチャレンジの後、昭和51年(1976)、創立50周年記念に新校舎正門の坂に移植されています。

(文責 関 厚)



MIT(プラザ) 二〇二二年五月、スウェーデンのメゾソプラノ、マリア・フォシユストロームのリサイタル「北欧からの贈り物」。彼女の歌うシューベルトは、涙を流しながら聴いている人が多かった。(大館文化会館との共催)

二〇二七年十月、津村和泉ピアノコンサート(コモッセ文化ホール)。ベートーベンのピアノソナタ「悲愴」と「月光」、ラフマニノフ、ショパン、リストの作品を本格的な演奏で堪能できた。

これらのコンサートは、たくさんの方にサポートしていただいた。彼らの協力はなには実現できなかった。わたしには帰る故郷があり、あたたかく迎えてくれる人たちがいた。心から感謝している。

卒業記念のアルバム(Souvenir Album 1969)は樺色の表紙で、鹿の角と五弁の花びらがデザインされた校章がとても美しい。

うか。わたしは草木染めもしているが、桂はアルミ媒染で樺色になるからである。十二、三年前、黄葉した葉で染めたシルクマフラーをいまだ愛用している。どんな草木もみな色の精を有する。季節によっても色の精は微妙に息づく。桂は黄葉し、落葉したとき、芳香がもつとも際立つ。わたしたちの人生と重なるところがあるようだ。

ちょうど十年前、荻窪の名曲喫茶で会費制の還暦パーティをした。十二弦ギターデュオの演奏付きで、記念品はわたしに草木で染めたスカーフやストール、ブログ仲間など、遠くからたくさんの方が集ってくれた。

今年にはコロナ禍で自粛生活を余儀なくされており、古希の集いは難しいかもしれない。しかし先のことばかりではない、生きていければ、元気でさえいれば、あらたな目標、よろこびが待っているも知れない。



心の友に 再開させてくれたもの

さいたま市消防音楽隊長
阿部 和博(二六期)

花輪高校と吹奏楽部で学んだことが私の人生を作ってくれました。当時の吹奏楽部は佐藤修一先生が顧問をされており全国的にも有名な吹奏楽部でした。私はただ音楽が好きというだけで、何にも気にせず何も考えずに毎日練習に通っていました。幸いにも三年生の時は学生指揮者もさせて頂きました。卒業で進路を決める段階で佐藤先生の勧めもあり音楽大学に進学しました。これが人生の分かれ道でした。その後埼玉県の中学校音楽教師として定年まで吹奏楽に関わらせて頂きました。幸いにも在職中は四回ほど全国大会にも出させて頂きました。現在は知人の薦めもあり、さいたま市消防音楽隊長として音楽の仕事も続けてもらっています。昨年は新天皇即位に伴う祝賀御列の儀パレードにもさいたま市消防音楽隊として参加させて頂きました。

そのような中で育ててもらった花輪高校に卒業以来何も関わって来なかったことに引け目を感じていました。ところが十数年前、私の関わっている「あおぞらハーモニ」吹奏楽団に高杉正さんが入団してきました。彼も花輪高校吹奏楽部の出身で、彼の仲立ちで吹奏楽部OBの方々と親交を持つことができ、小林久仁郎先生(花輪高校吹奏楽部の二回目の黄金期を作られた方です)の指揮で「花輪高



吹奏楽部同窓会(右端が阿部さん)

校創立九十周年記念演奏会」にも参加させて頂きました。また彼は花菜会の会員でもありました。彼の策略に乗せられ「花菜会」総会で話をさせられるはめになりました。しかしここでとても良いこともありました。それは私が三年生の時に担任してもらった前原正治先生(現在は詩人として有名です)も自作の「鹿角を生きたる」の朗読で来賓としてお見栄でした。本当に懐かしさと気恥ずかしさで、でもとても楽しい時間が過ぎました。そして最も嬉しかったことはこのことがきっかけで部長だった柳沢福三君から連絡がありました。私達は卒業二年目くらいに一度だけ何人かで会う機会がありました。その後四十年近く全くの音信不通の状態でした。しかし昨年十二月になんとか連絡を取り合うことができた吹奏楽部の同窓会をすることが出来ました。私にとって花輪高校は生みの親であり、あの吹奏楽の仲間には心を通わすことの出来る存在です。現在はコロナでどうしようもありませんが、これが収まったらまた誘い会わせてまた一緒に飲みたいものです。

「北限の桃」、今年も「億円突破」!

鹿角果樹協会会長 山本喜代宏(二六期)

かつの北限の桃のJA販売額は今年も「億円」の大步を超えた。主産地の山梨福島が長梅雨や穿孔細菌病の影響で成績が振るわなかったため品薄となり平均単価は昨年の一、五倍となった。今や北限の桃は市場の高い評価を得て鹿角を代表するブランドの一つになっている。地理的にみると鹿角よりも緯度が高い青森でも桃の栽培がおこなわれている。しかし栽培条件の主たる要因となる気温を見ると鹿角の方が年平均気温が低く、そのため収穫時期も遅くなり、市場出荷が最も遅い産地である。川中島白桃のような中晩生種は一定以上の温度が必要とされ、気象面でも北限である。全国的な桃の出荷量の八割が七、八月に集中する。鹿角地域は気温が冷涼なため、主産地より成熟期が遅れ、あかつきが八月下旬、川中島白桃が九月中旬頃となり、生産量日本一の山梨に比べ約一か月遅い。他産地からの出荷が極めて少なくなる九月に出荷を集中させることで高単価での販売が期待できるようになった。

鹿角は古くからりんごの栽培が盛んであったが、平成三年(一九九一年)の台風一九号(りんご台風)をはじめ、霜害、雪害など気象災害に見舞われる頻度が高くなってきた。また、九一年からのパブルの崩壊により、りんご価格が低迷するなど農家経営が不安定になってきた。そうした中、平成五、六年ごろから五戸の農家が樹種複合により経営の安定化を目指そうと、長野や山形など桃産地で研修を行い、鹿角に「桃栽培研究会」を立ち上げた。また、四〇年来川中島白桃を栽培してきた生産者がいたことで、短期間で川中島白桃の鹿角における有利性を実証することができた。

平成十三年に市が事務局となり「北限の桃産地推進協議会」を設立、翌年に「北限の桃出荷グループ」(JA事務局)が品質の統一をめざし、光センサーによる共同選果をスタートさせた。行政からの苗木購入や防風ネット補助など生産者、関係機関が一体となった産地化への努力で今日を迎えることができた。



意志あるところに道は拓ける



成田 利奈 (六七期)

意志あるところに道は拓ける。これは、私の高校時代からの座右の銘です。

私の高校生活は全て花輪高校陸上部にありました。高校受験を考えていたとき、漠然と海外に留学をしてみたいと考えていた私は、高校で海外に関するプログラムがある学校に進むか、陸上を続けるか迷っていました。しかし中学最後の大会で思うような成績を出せず、「このまま中途半端な気持ちのまま終わって、この先何か成し遂げられるだろうか」とそう思い、高校でも陸上を続けることに決めました。やるからには秋田県一番の強豪校で、全国大会を走りたいと思い、地元からは少し離れた花輪高校に進学を決めました。そこから始まった高校三年間は、駅伝一色でした。毎日朝夕で走行距離は二十キロを超え、親元を離れて慣れない土地での生活や厳しい食事の管理、体力的にも精神的にも辛く、三年間常にプレッシャーと戦っていました。故障で上手く走れない時は一番辛く、何をここにきたのだらうと、自分の目標を見失いかけたこともありました。

記録と順位を更新し、自分たちが今までしてきた努力に対して納得できる成果を残すことができました。最後まで共に頑張ったチームメイト、監督、応援して下さった全ての方々に今でも感謝は尽きません。楽しかった記憶より、辛かった記憶の方が多い高校時代。しかしこの三年間は、強い意志をもって努力すれば、必ず光が見えることを教えてくれました。高校を卒業後は、国際教養大学に進学し、念願だった海外留学を、大学のプログラムと自主留学という形で二度も叶えることができました。大学生活を振り返ると、尊敬できる友人や先生に恵まれ、留学以外にも学生団体での活動やインターンシップなど充実した日々を送ることができたと思います。しかし、高校で陸上一色の生活を送っていた私は、これまでと一八〇度違う世界の中で、常に壁にぶつかってきたことも確かです。全て英語で行われる授業、交換留学のための厳しい要件、留学先の文化の違いによるコミュニケーションの難しさなど、今まで以上の努力が必要なこと、自分だけの力ではどうにもできないことまで様々でした。そんな中でも踏ん張れたのは、高校時代の部活を通して努力と継続の力を培ってきたからだだと思います。

そして現在私は、日本にまで会いにきてくれる仲の良い外国人の友達がいる、来年四月からは国内外にオフィスを持ち、社内公用語が英語という企業に入社します。私は社会人となつて働くにあたり、「場所や環境に関係なく、もっと多くの人が機会を手に入れ挑戦できる社会に貢献したい」という思いがあります。これまでたくさんの人に支えてもらってきた感謝でもし切れない恩を、今度は私が社会に対して返して行けるように志を確かにもって道を切り拓いて行きたいと思っています。

同窓会 ゴルフコンペ



九月二八日、大館カントリークラブで第八回同窓会ゴルフコンペが開催されました。参加者は十人で、結果は、優勝 山田徹弘、準優勝 柴田恒一、二位 佐藤隆夫でした。その後懇親会も行われ、高校統合後の同窓会のあり方などの話題で大いに盛り上がりました。(事務)



同窓会報の発送について

例年、十一月頃に発行される会報は、住所の分かっている会員全員に発送していましたが、一家に何通もの会報が送られてくるが一通でいいというご指摘を何度もいただきました。役員会で検討した結果、昨年度から、同じ電話番号で複数の方が登録されている場合は、会員名簿の先に載っている方のみに発送することといたしました。かなりの経費削減にもなっておりますのでどうかご了承ください。なお、同じ住所に複数部ほしい方は、要望にできる限り対応したいと思っておりますので、学校事務室までご連絡ください。(事務局)

花輪高校同窓会 令和元年度決算書案、令和二年度予算書案

令和元年度 同窓会決算書(案)

Table with columns: 収入の部, 支出の部, 項, 目, 本年度予算額(A), 本年度決算額(B), 増減(B)-(A), 摘要, 前年度決算額. Includes sub-totals for 収入総額, 支出総額, 差引残額.

令和2年度 同窓会予算書(案)

Table with columns: 収入の部, 支出の部, 項, 目, 本年度予算額(A), 前年度予算額(B), 増減(A)-(B), 摘要, 前年度決算額. Includes sub-totals for 収入総額, 支出総額, 差引残額.

Summary table for 令和元年度: 収入総額 1,952,273, 支出総額 1,431,031, 差引残額 521,442. Includes breakdown by fund type (H27, H28, H29, H30).

Summary table for 令和2年度: 収入総額 1,959,000, 支出総額 1,959,000, 差引残額 0. Includes breakdown by fund type (H27, H28, H29, H30).